

標十五句

松岡隆子選

十六夜の十坪足らずの畑照らす
待たされてゐると思ふとばつたんこ
街暮れてけふの自分に桔梗買ふ
僧と行き合ふ満月の石畳
虫の音に溺るるままに寝入りたり
雁渡し海門橋は灯を連ね
帽子屋の鏡の中の敬老日
朝涼し蹠の砂のきしみさへ
人間を知り尽したる稲雀
眸忌の空へ声張る秋の蟬
看病の一人の気負ひつくつくし
みんみんの終りの刻を競ふなり
風音の高きを過ぐる柝は実
はめたまま軍手を洗ふ草の花
ゆき過ぎて京の町屋の秋簾

下平直子
川上昌子
濱地恵理子
室井千鶴子
峰岸よし子
松原ふみ子
別府優
内山けい子
一ノ瀬正喜
白井清春
早川紀子
中島紀子
東條恭子
田中敦子
石崎章子